

大会時・コロナ禍での取組

- ・東京2020大会の開催時には人流の増加によって通勤や来客が困難になることが予想されたため、取組の検討開始
- ・2019年秋：2020推進プロジェクトに参加
- ・2020年春：テレワークを導入

人の流れ

きっかけ

以前より実施

オリパラ

コロナ禍

- テレワーク・・・実施率約7割
- オフピーク通勤・・・通常の出社時間に、前後1時間の幅を設け混雑を避けた通勤を奨励
- 会議等のオンライン化・・・社内会議は全面的にWEB会議へ

物の流れ

きっかけ

以前より実施

オリパラ

コロナ禍

取引先に早めの発注を依頼

自社で電子化を請け負う書籍は、商用目的のものではなく、かつ納期の調整もある程度可能なためクレーム等はなし

取組ポイント

- 事前に社内委員会を発足。2020推進プロジェクトからの情報等を共有
- 社員の通勤時間は、部門ごとに話し合って調整・決定

取組ポイント

- 取引先と連携し事前に協力依頼

今後の取組

人の流れ

継続して取組を実施予定

- テレワーク・・・一部の部門に限って限定的に継続
- オフピーク通勤・・・全社的に継続

物の流れ

- 特に無し

【東京2020大会を振り返って】

- ・テレワークは、システム開発部門には効率が良いと好評だったが、営業部門では会社で保管している紙媒体の資料等が必要な場合が多く、苦勞していた。
- ・東京2020大会に向けて、社内で委員会を発足し、東京都から提供された交通規制に関する情報や混雑予測等を共有していた。